

日本：日経平均株価は米国株下落や円高進行を受け大幅下落

- 日経平均株価が約4カ月ぶりに37,000円割れ
- 米国株の大幅下落や急速な円高が背景
- 今後も為替動向には警戒が必要

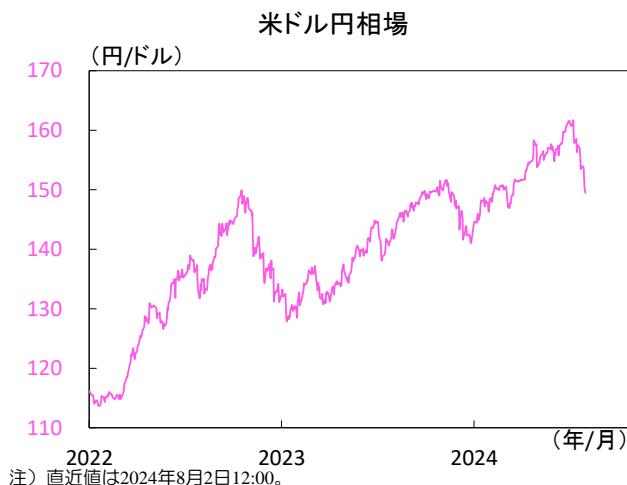
■ 日経平均株価が最高値から10%超下落

8月2日の日経平均株価は大幅下落し、一時2,000円超の下げ幅となり、前場終値では約4カ月ぶりに37,000円割れとなりました（図1）。主に海外投資家の日本株先物売りが進んだことが株価の重しとなったとみられます（図2）。また、前日の米国市場で主要株価指数が下落したことや、急速な円高が懸念されました。米国株下落の背景には7月の米ISM製造業景気指数が46.8と6月の48.5から低下したことや、8月1日に発表された7月27日までの1週間の新規失業保険申請件数が約1年ぶりの高水準になったことで、労働市場悪化の見方が広がったことが挙げられます。また、為替市場では円高が進行し、ドル円相場は約5カ月ぶりに1ドル=149円台となっています（図3）。7月30-31日に日銀が金融政策決定会合にて0.25%への利上げを決定したことが急速な円高反転の背景とみられています。

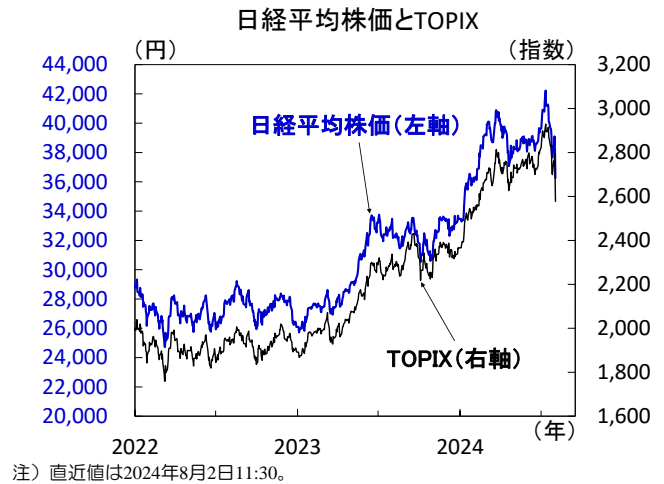
■ 今後、株価は反発する見込み

今回の株価大幅下落は日本経済悪化の懸念や、政治的・地政学的リスクの高まりへの懸念が直接の原因ではないとみています。日本の良好なファンダメンタルズや日本企業の増益期待の高まり、日本株の割高感が解消されつつあること（図4）を背景に、日本株は今後反発するとみえています。また、円安に反転すれば株価が値を戻す展開になるとみえます。今後の日銀と米連邦準備理事会（FRB）の金融政策決定が注目されます。（本江）

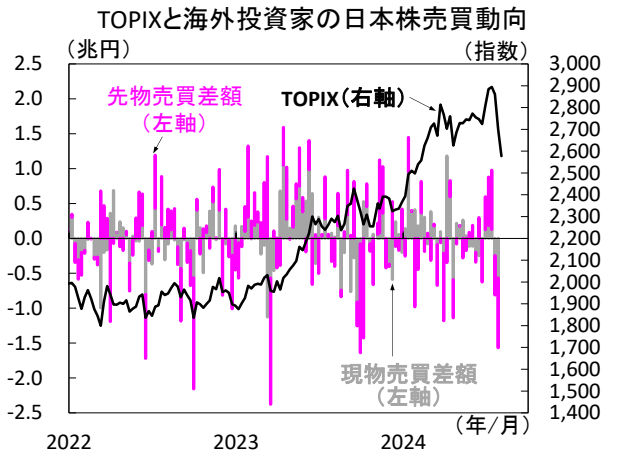
【図3】 為替市場では円高が進行し株価を押し下げ



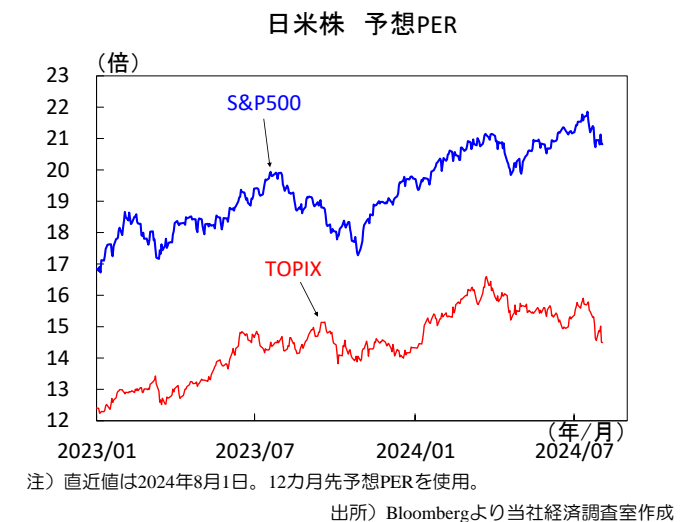
【図1】 日本株は大幅下落



【図2】 外国人投資家の日本株売りが株価の重しに



【図4】 日本株の割高感の調整進む



本資料に関してご留意頂きたい事項

- 本資料は、投資環境等に関する情報提供のために三菱UFJアセットマネジメントが作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。販売会社が投資勧誘に使用することを想定して作成したものではありません。
- 本資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 本資料は信頼できると判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性等を保証するものではありません。
- 各ページのグラフ・データ等は、過去の実績・状況または作成時点での見通し・分析であり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。また、税金・手数料等を考慮していません。
- 本資料に示す意見等は、特に断りのない限り本資料作成日現在の三菱UFJアセットマネジメント戦略運用部経済調査室の見解です。また、三菱UFJアセットマネジメントが設定・運用する各ファンドにおける投資判断がこれらの見解に基づくものとは限りません

本資料中で使用している指数について

「日経平均株価」に関する著作権、知的所有権、その他一切の権利は日本経済新聞社に帰属します。
TOPIX（東証株価指数）に関する知的財産権その他一切の権利は株式会社JPX総研又は株式会社JPX総研の関連会社に帰属します。



三菱UFJアセットマネジメント

三菱UFJアセットマネジメント株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第404号
加入協会：一般社団法人投資信託協会
一般社団法人日本投資顧問業協会